

U35 のメンバーが市民にわかりやすくレポートします！

傍聴記

10年後の自分と、京都のまちの、
ミライとモンダイを考える。

京都市基本計画審議会

レポーター 越村 美保子さん

愛知県豊橋市生まれ。京都橘大学大学院
文化政策学研究科博士後期課程単位取得
満期退学。U35副議長。大学時代から京
都在住で15年。2男1女の母。

第7回活性化部会

開催日：平成22年7月30日(金) 会場：消防局本庁舎
主な議題：基本計画第2次案の検討について
(政策の体系「大学」、「国際化」及び行政経営の大綱)

POINT

1

2次案に向けた最後の
活性化部会

今回は「政策の体系」第2次案について「大学・国際化」の分野、「行政経営の大綱」の議論が行われました。京都の魅力を最大限発揮する可能性を秘めている「大学と国際化」というテーマでの議論はとても両分野が密接に関わっていて、これで部会が終わってしまうのが残念な気持ちになりました。

会議の
ポイント

POINT

2

市民みんなの
学べる環境づくり

西京高校でバブコメを行った際、「自習できる場所がない、図書館は自習禁止だ」と高校生から意見がありました。推進施策にあげられている「学びの環境」は大学生だけのものではなく、中学生や高校生はもちろん、赤ちゃんや子どもたちも含めた市民がいつでも学べる環境を作っていくことが大切だと感じました。



会議を傍聴して思ったこと

「大学のまち・京都」を生かすため、2000年にキャンパスプラザ京都もでき、学生祭典をはじめ大学生向けの様々な事業が行われています。私が学生時代、それらは何もなくたのですが、十分楽しく学生時代を過ごしました。学生さんたちは、本当に自分のしたい活動ができていのかもっと検証が必要だと感じました。また、大学時代京都で過ごした学生が就職する際には他府県へ出て行ってしまったことも「残留組」の私としては残念に思います。京都で学んだ学生が「ずっと京都にいたい」と思えるような取組も必要だと思います。

キャンパスプラザ京都だけでなく青少年活動センターなどで活動する大学生や中高生が「地域」と連携するための仕掛けづくりをしてはどうかと思います。地域コミュニティ活性化のため、地域の催しや課題解決のための学生ネットワークが構築されて活動が継続されていけば、京都の学生さんはもっと京都のまちの「縁の下の力持ち」として活躍できるのではないかと思います。また自分たちの活動の必要性が地域に根付けば学生さんの「居場所づくり」にもなり、就職する時にも京都で暮らしたいと思われるのではないのでしょうか。

京都の未来に向けて
思いを馳せること今年には10年に一度の、京都市の10年後を考える年です。
市政をよく知り、よく考え、利用し、参加し、仲良くなろう